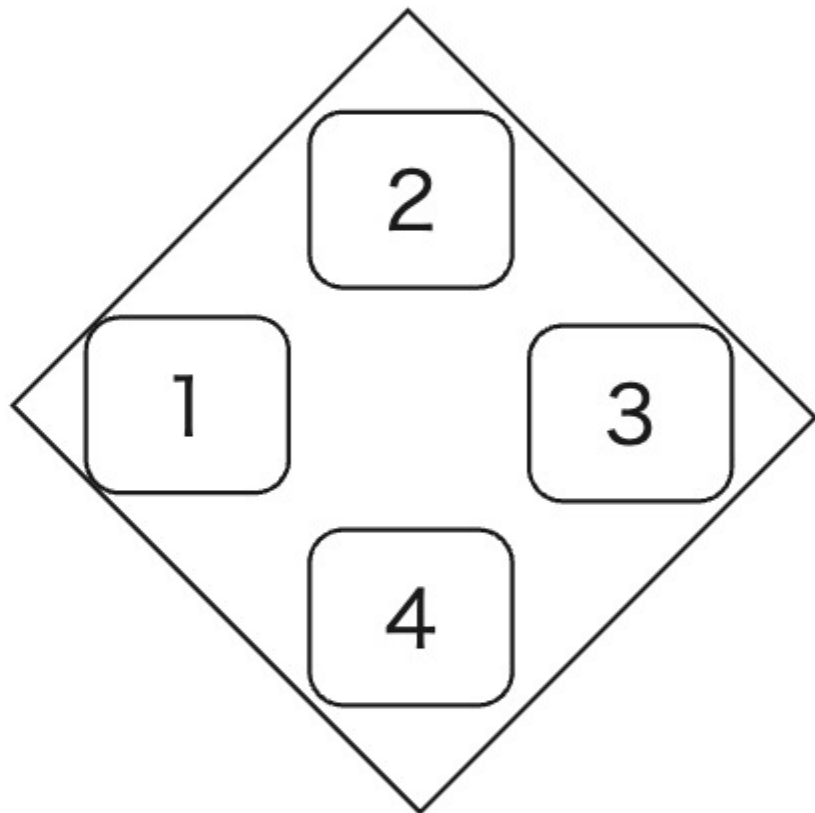


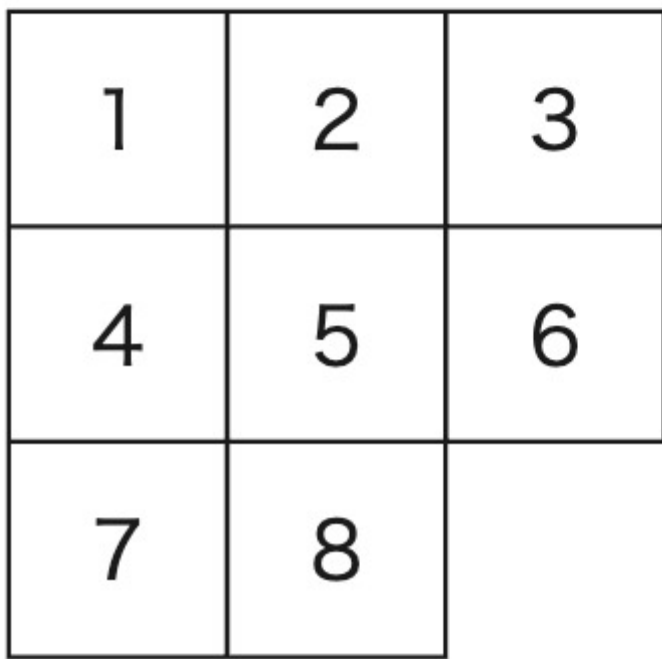
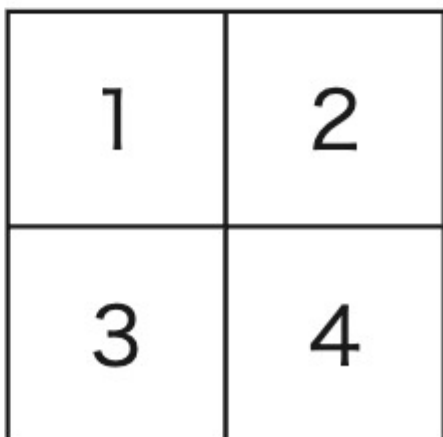
1.
正方形の紙片が与えられるということだったので、指定した「n」から得られる各数字についてカードのようなものが得られると考えた。
→しかし、その後の設問内容より、LやRの操作が与えられる。紙の枚数が多い状態で「折る」というもののイメージがつかないため、紙は1枚の状態であり、その中に数字があるものと考えた。



2. 正方形、折る、数字から、1枚の紙上に数字があるものをイメージした



3. 設問の内容から、数字の書かれた正方形の組み合わせで紙ができあがるものと想定した。
Nが2の場合は可能だが、Nが3の場合は隙間ができるので、この形ではなさそう



4.
ここで結果例を見て、上記までの考えと合わせて考えていたところ、1と最後の数字が隣り合わせになっていることから、折ることで1と最後の数字が近づく。ということに気づく。
また、2回折る場合の答えが4桁（2の2乗）、3回折る場合の答えが8桁（2の3乗）となっているので、指定した「n」回折ることで答えが出る状態になる。
ということから、 1×2 のn乗となる長方形ではないか？と考えた

n = 2



n = 3



5. この長方形の状態から、結果例を考える
n = 2 で、LL の場合。紙は上から見た状態なので、折れば折るほど見える面積が小さくなる

最初の状態

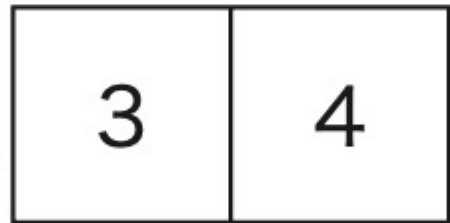


1 回目の L



左端を右端に向かって折るので、半分が上に重なる

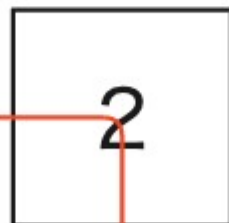
下には→
が隠れている



2 回目の L

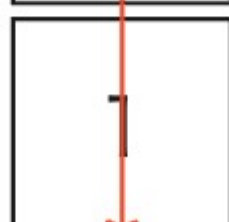


3の下には→
が隠れている



この状態で上から数字を順に読むと、結果例と同じ数字列が求められた。同様の考えで、LR、LRLを求めたところ結果例と一致したため、この考え方であっていると考えた。

2の下には→
が隠れている



1の下には→
が隠れている

